

## 40

## 日本大学歯学会機関誌の発行と変遷について

工藤 逸郎, 三宅 正彦, 見崎 徹, 小室 歳信, 若松 佳子  
下山 哲夫, 会田 卓久, 松江 高光, 小田 泰之, 関根 光治  
和田 雅彦, 武田 秋生, 岩成 進吉

日本大学歯学部

日本大学歯学部は昭和22年(1947)6月18日設立認可され佐藤運雄が歯学部長に就任した。

日本大学歯学部の前身東洋歯科医学校は大正5年(1916)4月15日佐藤運雄が創設し、大正9年(1920)3月財団法人東洋歯科医学専門学校の設立が認可され4月より授業が開始された。大正10年(1921)10月20日「東洋歯科月報」第1巻、第1号を発行したが、本誌は学会誌と同窓会誌の二重の性格を持つ雑誌であり、東洋歯科月報社が発行した。大正11年(1922)6月30日東洋歯科医学専門学校は日本大学に合併し、日本大学専門部歯科となり、「東洋歯科月報」は、「歯科月報」に改題された。昭和19年(1948)6月20日「歯科月報」は太平洋戦争激化のため第24巻、第5号で廃刊された。

戦後昭和22年(1947)6月18日日本大学歯学部の設立が認可され、初代歯学部長は佐藤運雄であった。昭和23年(1948)3月15日日本大学専門部歯科の廃止が認可された。昭和26年(1951)5月30日「歯科月報」は復刊記念号として復刊され、発行は日本大学歯学会発行、日本大学歯科同窓会後援と記され、学会誌と同窓会誌との二重の性格は、戦中廃刊迄の「歯科月報」と同様であった。「歯科月報」復刊第2号から昭和24年(1949)10月30日発行の歯科月報復刊第10号(第28巻、第2号)までは、日本大学歯科同窓会発行となり、雑誌の性格は学会誌と同窓会誌の二重の性格を持つ事は同様であった。昭和27年(1952)3月日本大学専門部歯科(第29回生)最後の卒業生となった。

昭和27年(1952)4月鈴木勝が歯学部長に就任し、昭和25年(1955)3月歯学部第1回卒業生が誕生した。昭和30年(1955)6月「歯科月報」第29巻第1号から日本大学歯学会発行の日本大学歯学会機関誌となった。同時に昭和31年(1956)「歯科月報」より同窓会記事等を分離し、新たに日本大学歯学部同窓会発行の「日本大学歯学部同窓会誌」創刊号を発行した。

昭和31年(1956)4月日本大学大学院歯学研究科設置が認可され第1回生が入学し、研究科長は歯学部長の鈴木勝が就任した。昭和35年(1960)3月大学院歯学研究科第1回生が終了し、歯学博士の学位が授与され、学位に関する、タイトル、内容要旨が掲載された。また、昭和33年(1958年)6月には日本大学歯学会の欧文誌「The Dental Journal of Nihon University」Vol.1 No.1 1958.が発行され、昭和34年(1959)3月欧文誌を「The Journal of Nihon University School of Dentistry」Vol.1 No.3 March 1959.に改題した。昭和39年(1964)1月には「歯科月報」を「日大歯学」に改題(第38巻第1号)し改めて、発行所を日本大学歯学会とした。

平成10年(1998)3月欧文誌を「Journal of Oral Science」Vol.40 No.1 March 1998.に改題した。従って現在は日本大学歯学会発行の和文誌「日大歯学」(Nihon University Dental Journal)と英文誌「Journal of Oral Science」が引き続き発行されている。